

## 第3回策定委員会における意見要旨

## 施策の体系と具体的な取組の展開 関連

## 進捗管理目標 関連

## Ⅰ 多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出

- 「ささえる」人材の確保に向けては、障害者スポーツ指導員等の資格取得に向けた支援も必要であるが、資格取得後に実際の活動につなげていくことが重要。また、スポーツイベントや大会の多くは土日開催され、指導員はボランティアとして参加することとなる。そのため、いかに継続的に活動していただくのかを検討していく必要がある。

- スポーツ実施率は、それぞれ年代別で算出できるため、具体的に子育て世代に限定した実施率を示し、県としてそれを推進していることを明確に打ち出しても良い。
- 総合型地域スポーツクラブの「登録・認証制度」を活用していくため、登録クラブ数や、認証クラブ数を目標値としても良いのではないかと。

## Ⅱ 子どものスポーツ活動の充実

- 子どものスポーツ技術の向上に向けては、指導者の技術の向上と標準化が必要。愛知県にはプロスポーツチームがたくさんあるため、そこで指導しているコーチのノウハウを部活動指導員の方々に伝達することで、地域課題の解決につながれば良い。
- スポーツが好きな子どもを増やしていくことが大前提にはなるが、バーンアウト、燃え尽き症候群、やらせ過ぎといったところにも配慮していく必要がある。

- 今回の計画の中では、体力低下ということよりも、どちらかと言えば部活動の地域移行化に重点が置かれていると感じているため、その指標も必要ではないかと。
- 部活動指導員についてはどの学校も配置を求めているため、数値目標に盛り込み、ぜひ予算確保に向けて対応していただきたい。

## Ⅲ トップアスリートの育成、活躍支援

- 競技団体の大会運営能力については、団体ごとに大きなばらつきがあり、乗り越えるべきハードルが異なる。そのため、国際大会に慣れていない団体については、特に働きかけが必要。国際大会への派遣や、実際に大会運営に携わることを通して、経験値を上げていく必要がある。

- 競技人口の裾野拡大という観点では、アカデミーの選考会への参加人数に関する数値も必要ではないかと。
- スポーツ指導者に関する指標についても盛り込むべきではないかと。運動部活動の地域移行を推進していく上でも押さえる必要がある。

## Ⅳ アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催、レガシー創出

- 大学生は意欲的であるため、積極的にPRすることで、アジア競技大会・アジアパラ競技大会への協力を引き出していくべきだと思う。体育系の学生のみならず、語学を学ぶ学生は選手団への対応など、様々な場面において頼りになると思う。
- アジアパラ競技大会は、県内のバリアフリーを進める上で大きな契機となる可能性がある。大会を通じて、人々の意識の変化や、競技施設等のバリアフリー化が進むことを期待している。

- 大会に向けたボランティア体制の構築は、大会レガシーの一つになると考えているため、ボランティアに関する指標を盛り込むべきではないかと。

## Ⅴ スポーツによる地域活性化

- eスポーツも含めて、スポーツの範囲が非常に広がってきていると感じるが、広がっていきながら、実際に体を動かすスポーツといかに関連付けていくのかというところを明確にしていければ良い。
- スポーツに関わる取組を企業が進めることで、それが企業価値を高めるものにもなる。大企業に限らず、中小・小規模企業も含めて、そういうチャンスだということがメッセージとして打ち出せると良い。

- スポーツを実際に「する」こと以外にも、スポーツツーリズムで来ていただく方もいる。そのため、スポーツに関係することで愛知県に訪れた方の数についても、数値目標として盛り込めると良い。
- ウィメンズマラソンは重要なイベントであるとは理解するが、1つの大会に絞って数値目標とすることには疑問を感じるため、再考いただきたい。